

科目区分	専門教育科目	授業科目名	保育実習Ⅲ				科目コード	26Y508	担当者	三原 ミヨ子			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	2年次	開講学期	通年	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士選択必修			
授業形態	実習	履修条件	入学時から本科目履修開始までの通算GPAが1.20未満の者は、原則として、本科目を履修することができない。							教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分			
実務の経験を有する教員担当科目		実務の経験内容及び科目との関連								科目に含めることが必要な事項				

授業の主題	保育実習Ⅰを踏まえ、家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深める。その上で、児童福祉施設（保育所以外）における家庭支援のための知識・技術などを具体的に学び、保育士としての自己課題を明確にする。	課題等への対応（フィードバックの方法等）	実習後に全体指導（実習報告会）や個別の事後指導をおこなう。
授業の方法	保育所以外の児童福祉施設及び障害者施設での学外実習をおこなう。	アクティブ・ラーニングの実施方法	実習施設で、学生自身が利用者・職員と直接関わりながら、保育に関する学びを深める。

授業計画		事前・事後学修
<p>実習期間：2年次 9月 10日間</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育実習Ⅰを踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能についての理解を深める 保育実習Ⅰを踏まえ、施設における子ども・利用者支援の実践についての理解を深める <ul style="list-style-type: none"> ・受容・共感的態度の実践 ・子ども・利用者ごとに異なるニーズの把握と理解 ・個別の指導計画・支援計画の活用実践の理解 ・家族への支援と対応 ・他機関、地域との連携の実態の理解 施設における保育士の役割業務（職業倫理含む）の理解と、自己課題の明確化 	<p>実習前に、実習先の子ども・利用者について理解を深めておく。実習後に自己の課題を確認する。</p>	
		事前・事後学修時間
		90分

教科書 [書名／著者名／出版社]	教育・保育実習の手引き、これからの時代の保育者養成・実習ガイド／大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜／中央法規	受講生へのメッセージ	施設で生活する子どもや利用者の心情及び実態の把握に努め、個に応じた支援技術の重要性を理解してください。併せて、施設の社会的役割についても理解を深めてください。
参考書 [書名／著者名／出版社]	なし		

評価基準																	
学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	学修成果の配点比率 (%)	評価方法の配点比率 (%)					学修成果の小分類			尺度						
			定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)	レベル1 (F : 59%以下)	
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	尽心	① 学習意欲															
		② 規律性															
	知識・技能	③ 知識	50			20			30	保育実習Ⅰを踏まえ、施設を利用する子ども・利用者支援に必要な知識を深く理解し、実践に活用できる。	施設保育に関する基礎的・専門的知識	実習施設による評価提出物	子ども・利用者の個々の状況やニーズを十分に理解し、常に適切な支援を实践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズを理解し、ほぼ適切な支援を实践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズをある程度理解し、適切な支援を实践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズの理解が十分とはいえなかったが、支援を实践することはできた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズがほとんど理解できておらず、適切な支援の实践もできなかった。
		④ 技能	50						50	保育実習Ⅰを踏まえ、施設を利用する子ども・利用者支援に必要な技能を深く理解し、実践に活用できる。	施設保育に関する基礎的・専門的知識	実習施設による評価	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得し、常に実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得し、実践することができた。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得し、ある程度実践することができた。	個々の状況やニーズに応じた支援のための技能を習得したが、実践への活用があまりできなかった。	子ども・利用者の個々の状況やニーズに応じた支援のための技能の習得ができず、実践もできなかった。
	創造	⑤ 情報活用能力															
		⑥ 課題解決力															
	表現	⑦ 言語活用能力															
		⑧ コミュニケーション力															
	実践	⑨ 主体性															
		⑩ 協働性															
合計		100			20			80									